

大賞

僕と御朱印

中村 友哉

僕が初めて御朱印をしようと思ったきっかけは、五年生の夏休みに京都にある上賀茂神社に行った時のことだった。父の実家が京都にあるので、それまでも、お寺や神社を巡ることが好きで、沢山の寺社を訪れていた。

上賀茂神社の本堂にお参りをして、帰ろうとしたら、何やら入口のテントの所で、人が大勢並んでいた。近づいてみると、中で女の人が墨で何か文字を書いて人に渡していた。気になったので、僕も並んでみた。僕の番になり、その女の人の

「これは何ですか」と聞くと、

「これは、御朱印と言って、お寺や神社に来て、お参り

をした証として頂くことができますよ。」と言われた。今まで沢山の寺社をお参りしてきた僕としては、これはいいなと思いい、その場で御朱印帳を買って、御朱印を頂いた。

次の日には早速、祖母の家から近い、平等院鳳凰堂に行って、御朱印を頂いた。ここの御朱印は、鳳凰堂と阿弥陀如来の二種類のものがあり、中でも鳳凰堂の御朱印は、その書体が素晴らしくオーラを感じた。

その年の冬休みには、京都の大原で御朱印をいくつか頂き、その後岩倉という所にある實相院に行った。實相院の御朱印は、真ん中に大きな梵字が一つ、ドンと書いてあった。この梵字の意味を調べると「不動明王」だった。實相院のご本尊は、不動明王なので、この御朱印はご本尊が書かれていることがわかった。梵字を調べると、インドで使用されるブラーフミー文字の漢訳名で、「ブラフマン（梵）の創造した文字」を意味するそうだ。色々な文字があるが、僕には形の区別がつかなかった。この日は大晦日だったので、御朱印の日付も、大晦

日と書かれており、特別なものに感じた。

翌日、元旦には、八坂神社に初詣に行った。ここでは、元旦限定の特別な御朱印があり、龍が印刷された紙に御朱印がされており、とても気に入っている。

二日に行った、醍醐寺には、三体の仏像があり、それぞれに御朱印があったので、三つの御朱印を頂いた。醍醐寺の敷地の中にある三宝院では、御朱印を頂く時に、僕にハンコを押してもいいと言われ、押印してみた。かなり大きいハンコだったので、結構力が必要で、うまく押せなかったが、貴重な体験ができた。この醍醐寺の近くにある、小野小町ゆかりの随心院の御朱印は、「曼荼羅殿」と書いてあり、この曼荼羅殿という文字には、昔、この寺を建てた人（仁海僧正）が、亡き母が生まれ変わって牛になった夢を見て、その牛を探して育てたが、死んでしまい、悲しんでその牛の皮に西界曼荼羅の絵を書いて、ご本尊にしたという逸話がある。僕はこの曼荼羅殿という字が一番好きだ。

六年生になる年の春休みには、母の実家に行くために

東京と横浜に行った。東京では、学問の神様が祀られている湯島天神に行った。ここの御朱印は、とめ・はね・はらいの仕方がとても独特で格好よかった。湯島天神の下の、心城院では、御朱印を頂く時に、お菓子を頂いた。又、関東ではあまり見られない水琴窟の音を聞くことができた。

神田明神では、御朱印帳を渡した相手が、つけまつ毛をつけた、お化粧の濃い、かなりイマ風のお姉さんだった。こんな人が、御朱印を書けるのかと思ったが、案内字は上手でも驚いた。ただ、やはり、神社の人っぽくなく、何だか重みを感じられなかった。

次の日は、母の実家の横浜から近い鎌倉に行った。初めての鎌倉は、京都とは違って、車も少なく、とても静寂な雰囲気だった。そして、山だけでなく、海も近いのが特徴だ。まず、初めに北鎌倉駅から母の知っているハイキングコースを通って、銭洗弁財天という所に行った。ここの水でお金を洗い、そのお金を使うと後で戻ってくるということで、僕は小銭をいっぱい洗った。御朱

印は、日付も全て漢字で書いてあり、書いてくれた人が、それにふりがなをふってくれた。

鎌倉駅から江の電に乗って長谷寺に行くと、御朱印を書ってくれた人が、僕の御朱印帳を見て、

「この銭洗弁財天の人は、僕の友達で良く知ってるよ。優しそうな人だったでしょ。」と話しかけてくれた。そして、

「こんなに御朱印を集めたんだね。小さいのに偉いね。すごいね。」とほめてくれた。僕は、すごく恥ずかしかつたが、嬉しかった。長谷寺は高台にあるので湘南の海が見えてとても綺麗だった。そして、長谷寺の近くの鎌倉大仏で御朱印を頂いた。

その翌日も、鎌倉に行った。江の電で極楽寺、成就院に行ったあと、御霊神社という所に行った。御朱印を書いて頂いているのを待っていたら、鳥居と本堂の間を江の電が通り、とてもびっくりした。神社の境内の中に線路が走っているの、有名な所だった。

鎌倉で有名な鶴岡八幡宮では、僕の御朱印帳を見て、

「御朱印帳に記念スタンプを押してはいけないよ。」と言われた。御朱印帳は、その神社のご本尊を写して頂くので、「記念」といった軽いものではないことを知って反省した。江の電でついスタンプを押してしまったのだ。

次に行った鎌倉宮の御朱印は、全てが大きな行書の文字で書かれていたので、何と書いてあるかわからなかった。後で、「鎌倉宮」と書いてあることがわかった。

横浜から福岡に戻る日、鎌倉へ向かう電車から見えてずっと行ってみたいと思っていた大船観音寺に行った。ここの観音様は真白で、胸から上だけが地面から出て、山の上から下を見下ろしている、とてもきれいな観音様だった。急な坂をずっと登って御朱印を頂いた時に、

「どこから来たの?」と言われ、福岡からと答えると、「遠くからわざわざ来てくれたんだね。えらいね。」と言われ、ここでも少し恥ずかしかつたがとても嬉しかった。色々な所で言われるので、子供で御朱印を集めるの

は珍しいのかも知れない。この時の旅行で二十ヶ所の御朱印を頂き、一冊目の御朱印帳が終わった。

鎌倉の長谷寺で買った紅葉の柄の二冊目の御朱印帳は太宰府天満宮に行った時に始めようと思っていた。太宰府天満宮で新しい御朱印帳を出すと、天満宮の人に、最初は伊勢神宮で頂くべきだと言われ、一枚目をあけて書いて頂いた。いつか、伊勢神宮に行かなければならないなど新たな目標ができた。

福岡にも有名な寺社が沢山あるので、休みの日には、一人で出かけている。山笠で有名な櫛田神社は、結構都会の中にあるのに、静かで心が落ち着いていた。御朱印帳を渡した時に中を見て、

「色々な所に行ってるんだね。偉いね。これから頑張ってるね。」と言われ、何度も同じことを言われてきたが、とてもやる気が出た。

六年生の修学旅行で広島宮島に行った時には、自分で計画を立て、好きな所を巡ることができた。僕の班が行ったのは、大聖院というお寺だった。少し歩いた所

にとてもきれいな滝があり、大きな一枚岩から水が落ちていた。そこでは、皆で川遊びもして、すごく良い思い出だ。大聖院の御朱印は、一部がのばされていて、波切不動明王という字だ。僕は、この御朱印もとても気に入っている。

そして中学生になる前の今年の春、再び鎌倉に行った。浄妙寺というお寺は、庭がとてもきれいで、庭を見ている間に御朱印を書いて頂いた。浄妙寺の女の人が、「葉っぱで虫を作ってあげようか?」と言われ、どんな物が想像もつかなかったが、作ってもらうと、笹の葉を上手に編んだバッタで、生き生きとしていた。記念に御朱印帳にはさんである。作り方を教われば良かったと後悔している。

けんちん汁で有名な建長寺は、拝観者も多く、とりには関連する高校もあった。拝観料を払う時に、御朱印帳を預け、帰る時に受け取るということだった。建長寺はその境内がとても広く、中には色々な建物があった。山の方に向かう道には、半僧坊という見晴らしの良い所

がある。と聞いたので、三十分位登った。階段もあり、少し怖く高い場所だった。そのままハイキングコースに行けるそう。半僧坊にも社務所があり、ここでも御朱印が頂けると聞いて、入り口で御朱印帳を預けたことをとても後悔した。試しに入り口で御朱印帳を預けたことを伝えて、ここの御朱印も頂けないかと聞くと、入り口に電話をしてくれて、入り口の所で半僧坊の御朱印を書いて頂くことになった。折角ここまで登ってきたので絶対に、御朱印を頂きたかったので、親切に電話をしてもらってとても嬉しかったし、ホッとした。

建長寺から、鎌倉駅に向かって歩く途中にも、お寺がいくつもあった。薬王寺というお寺では、御朱印を書いて頂き受け取ってお金を払おうとすると、

「沢山お寺をまわって偉いね。お金はいいよ。」と言われた。申し訳ないとは思いつながらも、たまにはこんないい事もあるんだなと思った。

浄光明寺では、御朱印をお願いすると、住職さんに、「何の御朱印がいいですか。」と聞かれた。大きなお寺

のように御朱印の見本がある訳でもなく、こんな小さなお寺でそんなに沢山の御朱印があるのだろうかと思いつながら、何となく、

「ご本尊でお願いします。」と答えた。しばらく待って御朱印を受け取る時に、

「かしこいんだね。ご本尊なんて言葉を知っているんだね。」と言われた。気になったので、「他にどんな御朱印があるんですか。」と聞くと、その住職さんからは十種類くらいよくわからない言葉が沢山でてきた。お寺によって御朱印の数が違い、こんな小さなお寺なのに、色々な御朱印があるのだということも改めて知った。

この住職さんはいわゆるとてもイケメンでこの人を見た母が、

「あんなすてきな人がお姉ちゃんのおムコさんになってくれたらいいのにな。そしたら鎌倉にしょっちゅう遊びに来ることができるわね。」と言ったので、僕が、

「あの人が僕のお義兄さんになるのか。」と言うと、母はゲラゲラ笑った。福岡に戻ってから姉にその話をする

と、高校生の姉は、

「勝手に決めないでよ。」と怒っていた。

鎌倉駅の近くにある妙本寺では、境内に保育園がある、珍しいお寺だった。お参りした後、御朱印を頂くために社務所で御朱印帳を渡すと、

「今年で何才になるの？」と聞かれ、

「十二才です。」と答えた。すると、

「卒業したんだね。おめでどう。」と言われた。御朱印帳を受け取り、中を見ると、

「学徳増心」「心願成就」という言葉も横に書かれていた。何だかとても嬉しく感動した。

御朱印をこの二年間集めてきたが、最初のうちはともかく沢山集めたいという気持ちだけが、先にあったが、お寺の人と色々お話ししたり、親切にして頂いたり、単に御朱印を頂く以上のものを頂いているなあと感じる事が多くなった。これからも様々な所に行つて、その土地の寺社を沢山、訪れることになると思う。その時に、その土地の人と関わるのに、僕のような恥ずかしがりに

は、御朱印はとても良いコミュニケーション手段になると思う。本当に御朱印を集めることにして良かったし、これからも続けていきたいと思っている。